

ケアセンターけやき

症例概要 利用者:80代・女性 要介護2

利用期間:令和2年11月～現在

既往歴:2016年頃 介護拒否が非常に強くT病院に措置入院

2018年頃 認知症加療のため入院 アルツハイマー型認知症、低カリウム血症

経過:他グループホーム入所中に強い介護拒否、筋力低下、歩行困難になり、Y病院に入院となる。その後食欲低下、尿路感染、尿閉発生。拒食・介護拒否等により、中心静脈カテーテル挿入となり、竹川病院に転院となる。リハビリにて徐々に回復がみられ、けやきに入所となる。

当初は活力なく、自発的に行動される事は無かったが、自分の子供の頃の話を楽しそうに話される為、その話題をきっかけに職員が積極的に幼少期の話を聞く事により、表情が豊かになり、自らも職員に声を掛けてくれるようになり、現在穏やかな日々を過ごしていただいている。

内 容

自宅でご家族への強い介護拒否による意思疎通困難の為、一時措置入院となる。その後認知症の加療も開始され、他グループホームに入所となるが、引き続き強い介護拒否、筋力低下、上肢の不随意運動、食欲低下も出現し自力歩行不可能となりY病院に入院となる。入院後も拒食・介護拒否等続き中心静脈カテーテル挿入となる。尿閉のためバルーンカテーテル留置。退院困難と判断され竹川病院に転院となる。

ご家族は経口摂取の回復を希望されており、竹川病院にてリハビリ可能との評価でリハビリを開始される。膀胱留置カテーテル抜去、歩行器使用での歩行、常食での摂取まで回復されて退院となり、けやきに入居される。

他グループホームは解約されていたため、ご家族が竹川病院の同法人であるけやきへの入居を希望され、入居となる。入居当初は表情が乏しく、寡黙に座られている事が多く、職員の声掛けにも単発的な返事で、帰宅願望も見られていた。また、トイレへの自発的な行動もなく定時誘導を行っていた。

当初から職員より様々な問いかけをしている中で、回想法を試すべく子供のころの話を聞いてみたところ、生まれ古郷のお爺様が村長をされていた事。自分はお爺ちゃん子でとても可愛がってもらったこと等、とても良い笑顔で話しをしていただいた。これをきっかけに、時間を作り幼少期のころの話を聞く事を続けた結果、表情も非常に豊かになり、時に冗談も仰る状況までに至る。また、ご自身からも職員へ話をされるようになり、トイレに行きたいとの要望も聞かれるようになる。

施設内の行動も積極的になり、他入居者さんへも自分から挨拶され、食事の盛り付けやお茶入れも率先して行って頂けるようになる。運動にも積極的で、毎日歩行器を使用し、職員とフロアを周回している際には職員に対して冗談を発せられるなど、多くの笑顔を見せて頂けるようになる。

入所以前は、非常に強い介護拒否があったが、ご本人の楽しかった幼少期の思い出の話から傾聴したことで、職員に対して信頼意識をお持ちいただき、現在では安心して楽しい日々を過ごして頂けるようになった事は、キラキラ介護賞に値するとし、推薦させていただきます。